

うずみ火

あの日 ころころわれ
ときが立ち止まる
ころろなくて 哭けず
怒りさえも わかぬ
ころろ うごかざれば
ときも あの日のまま

暗き梯^{はし}をくだり

ここはどこと 問うと
闇の底と 木霊^{こだま}かえす

そこに光 あるか

闇に光 あらぬ

なにをさして すすむ
ひかりさして すすめ
ひかりどこに あるか
ひとみ とじてみれば
ころろしが みえる

ころろしを いただき

暗き梯を のぼる

広場ありて 人が群れる
炎ありしものは
火なきものにわけあたう
凍てしころろ融け
空にひかり射し
ときの針 また 動きだす

鈴木昭司